

はぐさんコミュニティ・スクールだより

平成30年3月14日発行 第11号

わくわく学習部会

～サポーターさんと豊かな学びを～

わくわく学習部会では、1年間を通していろいろな学習で多くのサポーターが参加しました。経験豊富なみなさんが実技を示したりお話を紹介したりして、今年度も充実した活動ができました。



イチゴハウス見学

家庭科ミシン

算数そろばん

朝の読み聞かせ

昼の読み聞かせ



3年生の「昔の道具を使おう」では、おやじ・おふくろの会、井戸婦人会、サポーターのみなさんといっしょに、臼と杵で餅つきをしました。臼と杵を初めて使う子どもも多く、「もっとつきたい。」「楽しい。」という声が多く聞かれました。「ぺったん、ぺったん」ともちをつく音と「よいしょ、よいしょ」のかけ声が会場に響きました。サポーターのみなさんや校長先生、教頭先生の力強いもちつきには、大きな歓声が上がっていました。



わたしは、まねの重子にびっくりしました。はじめは、軽そうでかんたんそうだったけど、使ってみるとまねは重くて、おもちをつくのはむずかしく、たのび、昔の人はこんなことをしててすごいな、と思いましたがサポーターさんは、まねをやらせておもちをついてね。と言っていたので、まねをやらせて、おいしいおもちが、気持ちよくなりました。サポーターのみなさんと作ったおもちにはとてもおいしかったです。

もちをきねでつくとき、重くておどろきました。サポーターのみなさんと、きねでつくってうれしかったです。もちをあんこにつつむときは、つめ方を教えてもらって、勉強になりました。きねが、とてもいいもちができたのでよかったです。

もう一度、やってみようと思います。



第2回はぐくみ運動スペシャル

2月9日から23日に、「はぐくみ運動スペシャル2」として、子どもたちは、親や兄弟、おじいさん、おばあさんと一緒に様々な活動をしました。今回は、わくわく学習部会が作成した「はぐくみスペシャルだより」を参考に、「今度はこちらでもしてみよう。」という意見もあり、成果が見られました。「家族でいっしょに料理をしたり、遊んだりしてゆっくり話ができよかったです。」という感想が多くありました。来年度も継続し、実施後にはその取り組み例を紹介する予定です。

間もなく卒業を迎える6年生は、サポーターのみなさんと計画したいちご大福作りを行いました。子どもたちは、作り方をよく聞き、店で売っているようないちご大福を作りました。おめでたい日にふさわしい活動でした。



にこにこ生活部会

～サポーターさんと共に心もきれいに～

2月26日に今年度最後のピカピカ大そうじが行われ、いつもの掃除ではあまり行き届かない廊下や教室の汚れを重点的に磨きました。今年度、9回のピカピカ大掃除を実施し、100名を超えるサポーターさんが参加しました。ありがとうございました。



2月28日にベルマーク集計ボランティアがありました。今年は例年以上のベルマークが集まりました。



子どもたちは、見守り隊のみなさんのおかげで、今年度も安全に登下校できました。



2月から3月にかけて掲示ボランティアがありました。卒業式に向けて教室の掲示作りを行っています。

すくすく健康部会

～サポーターさんと健やかな体作りを～

1年間を通して、蓮井歯科医院のみなさんが学級担任と共に「歯の健康を考える学習」を行いました。2月28日には、関係者が集まって1年間の取組みを振り返り、来年度に向けての成果と改善点をまとめました。



3月13日に今年度2回目の「おにぎり弁当の日」を実施しました。今回も一人一人がお家の人とふれあいながら、楽しくおにぎりを作りました。6年生は、自分で作ったおにぎりを自慢しながら、笑顔でほおぼっていました。来年度も、「お米を作ろう大作戦」を行い、食と農の実体験をする予定です。昔の農具も使いながら、お米作りに関心をもち、食に感謝する子どもを育てていきます。



学校運営協議会

2月20日に、第4回学校運営協議会が開かれました。

香川大学より柳澤良明先生が出席され、来年度の活動方針や内容について話し合われました。協議内容は以下のとおりです。

- ・今年度は、奥山地区のみなさんがサポーターとして活動に参加した。新たなサポーターが参加することでより充実した活動になった。
- ・来年度は、シニア世代の参加を働きかける。
- ・5月の運動会前の緑化活動は、にこにこ生活部会が呼びかけ、地域のサポーターも参加して行うよう計画する。
- ・はぐくみ運動は、年2回のスペシャル期間を設けたことで成果があった。来年度も継続する。
- ・防災キャンプは、回を重ねるにつれて参加者の意識が高まっているので、さらにそのあり方を考えて行く。実施内容や実施場所なども新たに検討し、防災の輪を広げていく。
- ・来年度は、ニュースポーツを取り入れて、体を動かす楽しさを子どもたちに味わってもらう。
- ・わくわく講座など子どもたちが主役になる仕組みがさらに進んでいる。子どもたちが自信をもっていきいきと活躍できる場を増やしていく。
- ・サポーターが参加して楽しかったと思える活動にするため、誰もが主役となるコミュニティにする。

